

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2014-1-505
研究課題名	再構成 CT を用いた鼻中隔篩骨正中板と鼻中隔軟骨の解剖学的解析
研究期間	西暦 2014 年 11 月（倫理委員会承認後）～ 2015 年 1 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（CT 画像・カルテ）
上記材料の採取期間	西暦 2013 年 1 月～ 2014 年 10 月
意義、目的	鼻中隔彎曲症に対する鼻中隔矯正術は日常の耳鼻科診療で行われる最も一般的な術式のひとつである。鼻中隔を矯正する際には鼻中隔篩骨正中板と鼻中隔軟骨を離断するが、腹側方向に離断し過ぎると鞍鼻になる。今回我々は、鼻中隔彎曲症の患者と正常患者において鼻中隔篩骨正中板と鼻中隔軟骨の接合部と鼻骨の先端からの距離を計測する。この事によって手術の際に最も注意を払うべき患者層がわかり、鞍鼻の合併症を予防することができる考えた。
方法	西暦 2013 年 1 月～西暦 2014 年 10 月当科で通常診療のために頭部 CT を撮影した患者のデータ（性別・年齢・鼻中隔の彎曲の程度、鼻中隔篩骨正中板と鼻中隔軟骨の接合部と鼻骨の先端からの距離）を電子カルテ上で参照し、鼻中隔彎曲の角度、鼻中隔篩骨正中板と鼻中隔軟骨の接合部と鼻骨の先端からの距離を計測する。
問い合わせ・苦情等の窓口	実施責任者 野村和弘 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医局 022-717-7304